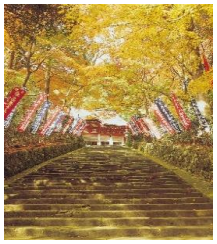
歴史・文化サイトカード

通しNo.	1-A-14	更新日	2025/2/20
サイト名	直爆滝とイロハ紅葉(もみじ)が彩る名刹(めいさつ)～鰐淵寺(がくえんじ)、浮浪滝(ふろうのたき)		

基本情報	区分	☑有形　□無形　□その他
	所在地	出雲市別所町148番地
	指定別	①「鰐淵寺境内」 国指定 ②「鰐淵寺根本堂」 市指定
	種別	①史跡名勝天然記念物 ②有形文化財・建造物
	指定／登録年月日	①2016(平成28)年3月1日 ②2019(令和元)年3月27日
	管理団体／モニタリング	鰐淵寺、出雲市
	周辺施設／アクセス	☑トイレ　□売店　□飲食店　☑駐車場(30台程度) ／山陰道宍道ICから車で約25分・一畑電車雲州平田駅からバスで約 25 分「鰐淵寺駐車場」下車後徒歩約15分
	留意点	

サイトの解説	歴史・文化	鰐淵寺は、島根県出雲市にある天台宗寺院で山号は浮浪山、伝承によると智春上人(ちしゅんしょうにん)により594(推古2)年に開山されたと言われている。平安時代末期頃には修験行場としても発展し日本全国に知られるようになり、中国観音霊場第25番札所、出雲観音霊場第3番札所、出雲国神仏霊場第2番札所となっている。本尊は千手観世音菩薩と薬師如来の2体である。 鰐淵寺は平安時代末の『梁塵秘抄』(平安時代末期)に「聖(ひじり)の住所(すみか)」として記されるなど、修験の場として知られていた。平安期から中世にかけての神仏習合のなかで、出雲大社の祭事において鰐淵寺僧が大般若経転読を行う等、出雲大社との関係を深めた。しかしながら、出雲大社の寛文の造営を契機に出雲大社の神仏分離がなされ、大社との関係は途絶した。僧坊の退転も進み、『雲陽誌(うんようし)』(1717年(享保2)年)では僧坊が12坊となっていた。しかし、明治維新後もなお法統を今に伝え、根本堂・常行堂・摩多羅神社・開山堂・釈迦堂・蔵王堂といった江戸期の伽藍建築や旧松本坊(現本坊)が現存するほか、銅造観世音菩薩立像(重要文化財)をはじめ、絵画、書跡・古文書(『鰐淵寺文書』)、彫刻等、多数の寺宝を伝えている。 武蔵坊弁慶が若き日に修業をした、山から1日で梵鐘を担いできたなど、ロマンにあふれる伝説も残っており、若き弁慶の修行の足跡は島根半島四十二浦巡りの山岳コースにもなっている。山陰屈指の紅葉の名所として親しまれており、晩秋になると境内はあたり一面真紅に染まり、多くの参拝客が訪れている。 出雲市教育委員会が島根大学と2009(平成21)～2011(平成23)年度に実施した鰐淵寺総合調査、2010(平成22)～2014(平成26)年度に実施した境内の分布調査・発掘調査・石造物調査等から、鰐淵寺は中国地方を代表する山林寺院であり、現在も中世以来の寺院景観を残し、中世期の繁栄を物語る遺構・遺物が良好に残存していることが判明したところから中国地方における山林寺院の形成とその中世的展開、及び近世期の変容を理解する上で貴重である。
	地形・地質、生物・生態等	鰐淵寺のある山地は、島根半島に広く分布する流紋岩の溶岩や火山砕屑岩でできている。日本海の拡大期の1600万年前頃の海底火山活動によるもので、火山砕屑岩は熱水変質を受けて緑色をしているため、グリーンタフと呼ばれることがある。参詣途中の鰐淵寺川でこのような緑色凝灰岩を見ることができる。鰐淵寺の名称の由来となった「浮浪滝」は、侵食に強い流紋岩溶岩が厚く発達したところにあり、落差15mの直瀑(水流が直接滝壺へ注ぐ滝)になっている。鰐淵寺は、この一帯が流紋岩の火山噴出物の性質の違いを受けて険しい地形となったため、修験にふさわしい場所として繁栄した。この場所から出雲北山への登山道として、遥堪峠と伊努谷峠へ向かう自然遊歩道が整備されている。 また、鰐淵寺周辺の森林は、原生的な森林が残り、地域の景観を代表する森林として、特定植物群落「鰐淵寺照葉樹林」に指定されている。

写真・図等		
 本堂	 仁王門とモミジ	 浮浪滝と蔵王堂

参考文献	